

こねっと

Vol.2



市民バス体験会のひとコマ（牡鹿地区）

支え合いの地域づくりを進める話し合いの場 『第2層協議体』の活動が始まっています！

- 前回に続き、市内16地区のうち残り8地区の取り組みを紹介
- 生活支援体制整備事業 Q&A

こねっと、とは…「こねる」と「ネットワーク」（つながり）を組み合わせた造語で、地域が混ざり合うことでたくさんのつながりが生まれるようにとの思いが込められています。こねっとでは、市内の「支え合い情報」や「生活支援情報」のほか、地域のみなさんの頑張りを発信していきます♪

地域が混ざり合う協議体の色々な力

共に支え合う「地域の力」。誰だってその登場人物に。

『良いことも、困ったことも分け合える、いざという時に助け合える』そんな地域を目指し、シェアやまのてがスタートしました。

地域で行われている活動や日常に溶け込んだ支え合い等を共有する中で、「地域が持つ力を大切にしたい」という話から、実際に2つのサロンに足を運び、話を伺いました。参加者の「ここに来ると元気になる」といった声を聞き、運営の大変さだけではなく、集いの場の持つ力を実感しています。また、見学先のサロン会にとっては、自分たちの活動の良さを再認識する機会になりました。

今後また皆さんの人たちとつながりを作りながら、地域の力をシェアする取り組みと一緒に考えていきます。

- 主なメンバー 6名
- 民生委員児童委員、福祉協力員、地域包括支援センター職員

担当
コーディネーター
杉浦有紀



「3M会」は出入り自由！いつでもだれでも参加できる場。

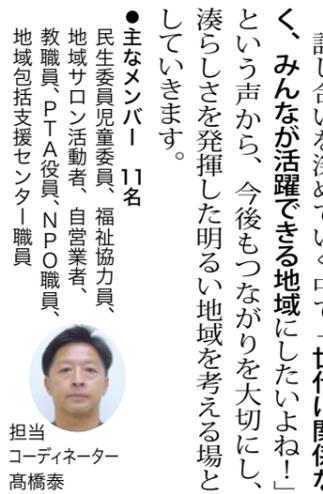
『みんなのみなとのみらいを話そう』をコンセプトに、30代から70代まで幅広い年代の7名でスタートしました。この協議体は3つの『み』から3M会と名付けられ、出入り自由、メンバーを固定しない柔軟な話し合いの場を目指しています。

ざっくばらんに話してみると、「民生委員やサロン活動を引き継いでもらえる人が見つからない」「いないと困る存在だからやめられない」など、これからの地域の担い手についての不安な気持ちが共有されました。

話し合いを深めていく中で「世代に関係なく、みんなが活躍できる地域にしたいよね」という声から、今後もつながりを大切に、湊らしさを発揮した明るい地域を考える場としていきます。

- 主なメンバー 11名
- 民生委員児童委員、福祉協力員、地域サロン活動者、自営業者、教職員、PTA役員、NPO職員、地域包括支援センター職員

担当
コーディネーター
高橋泰



温故知新！食を通して時代と世代を超えたつながりづくり。

『食を通して知識や経験を学び、伝え、人と人とのつながりを作っていく』というスローガンのもと、ざっくばらんな情報交換をしてきました。

「核家族が増え世代を超えたつながりが減っている」「郷土料理を伝える機会がない」といった声から、子育て世代とのさんまのすり身づくりや、子どもが地域で集まる機会として芋掘り会を企画しました。地域の協力者からは「若い人に聞いてもらえる」と教えがいがあって楽しい」といった感想が聞かれ、世代間交流が高齢者の生きがいづくりにつながっていることがわかりました。

「素敵な人やモノともしっかりつながりたい」こうしたメンバーの思いを軸に、協議体がつなぎ役としての力を発揮していけるよう、話し合いを重ねていきます。

- 主なメンバー 5名
- 民生委員児童委員、ボランティア活動者、子育てサロン活動者、福祉施設職員、NPO職員

担当
コーディネーター
藤守克

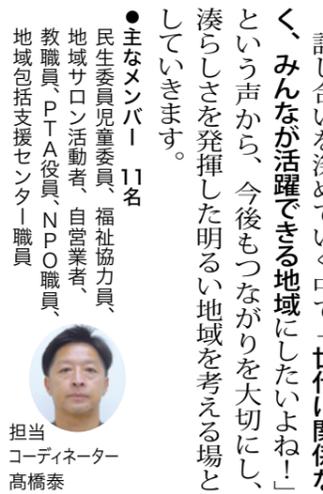


山の手地区 第2層協議体



担当
コーディネーター
杉浦有紀

湊地区 第2層協議体 3M会



担当
コーディネーター
高橋泰

蛇田地区 第2層協議体 名称検討中



担当
コーディネーター
藤守克

荻浜地区 第2層協議体



『50代を中心に同年代のメンバーが浜を超えて集まり、『自分たちが高齢になったときどうしよう地域だったら良いか』について話し合いを重ねています。』

「やっぱり健康づくりが大事」「ものづくりをしながらの方が話が弾むよね」との声から、地域の方も交えて手作業を楽しみながら話し合ったり、リハビリの専門職の方を招いて体操を教わったりするように、協議体が居場所や介護予防の機能を持ち始めています。

牡蠣養殖が盛んなこの地区で『生涯現役』で元気に過ごすには、いかに体力を維持していけるかが大切。小さな輪を少しずつ地域に広げていくことを目標に活動していきます。

- 主なメンバー 4名
- 福祉協力員、自営業者（飲食店、牡蠣養殖）

担当
コーディネーター
佐々木由布子

渡波地区 第2層協議体 渡波かたろう会



担当
コーディネーター
西本健太郎

いつも元気に挨拶！あなたの笑顔はみんなの幸せ。

『大人も子どもも気軽に挨拶ができるまち』を主なテーマとして話し合いを進めました。「いまは誰がどこの子かも分からない、もっと子どもとの接点を作りたい」との声をきっかけに、中学生や大学生、PTAの方にも加わってもらい、ハロウィンを通じた世代間交流イベントに取り組んでみることにしました。

地域からは「子どもも神輿がなくなると寂しかった」「自分でよければ手伝うよ」と、10代から80代までの方が集まり、お菓子配りなどの役割を担ってくれました。また、終了後に「子どもたちから元気をもらった！またやりたい」と声が上がると、交流によって高齢者が生き生きと活躍する効果が生まれる機会にもなりました。

今後、大人自身が楽しみながら取り組むことを大切に、つながりを広げていきます。

- 主なメンバー 10名
- 民生委員児童委員、主任児童委員、地域サロン活動者、PTA役員、神職、福祉施設職員、NPO職員

雄勝地区 第2層協議体 雄勝地区支え合い会議



視点を換えれば、それだけじゃない「集いの場」が見えてくる。

地域の集いの場について共有することからスタートしました。震災後、青年部や婦人会などの集まりはなくなったが、代わりにサロンが増えたとの話から、サロン会に参加していない人のつながりを心配する声がありました。

その後「集会所掃除の後にお茶っこしているんだ」「浜仕事も集まりだ」といった声から普段の暮らしの中にもつながる場が存在していることが見えてきました。その多様なつながり方を再認識し、大切にできるように、まずは地区別の『集いの場リスト』を作成することになりました。

- 主なメンバー 15名
- 地区会長、行政委員、民生委員児童委員、身体障害者協会会員、老人クラブ会員、福祉施設職員、道の駅駅長、ボランティア活動者、教職員、市職員、団体職員、元団体職員

担当
コーディネーター
佐々木佳洋

地域と暮らしの理想とは？河南地区の支え合いを再発見。

『いつまでも元気で安心して暮らせる河南地区』を目指し「健康・集いの場・支え合い・担い手育成・つながり・地域への愛着」の6つの視点で話し合いを進めています。「地域でできる支え合いの事例を聞いてみたい」との声から、これまでに広瀬、和瀬、鹿又、北村地区の方から話を聞く機会を設けました。

ある事例から「高齢者は夕食を作るのが大変」と気づき、福祉施設職員のメンバーが「地域の一員として、施設ができる支え合いを考えてみたい」と『夕食会』を企画。実施の際には、近隣の高齢者への声かけを民生委員児童委員に担ってもらいました。

話し合いを通じて、自分にできることを考え、行動に移すという変化が生まれてきています。

- 主なメンバー 11名
- 行政委員、民生委員児童委員、ボランティア活動者、婦人会会員、老人クラブ会員、商工会役員、福祉施設職員、市職員、元市職員

担当
コーディネーター
山本将志



住みたい町を思い描く！みんなで考え、みんなで支える。

『移動・子育て環境・つながり』の3つのテーマを中心に話し合いを進めています。テーマごとに、過去から現在までの変化、そしてその変化の要因にも目を向け、じっくり考える時間になっています。

移動のテーマでは「昔はお店がたくさんあって桃生の中だけで暮らしていた」「今は三陸道が整備され、仕事や買い物を選択肢が増えた」「一方で、車の運転ができない高齢者は、暮らしづらさを抱えている」といった意見が出ており、時代の変化に合わせた、暮らしの工夫の必要性が見えてきています。

これまでの暮らしを支えてきた『人のあたたかさやつながりの強さ』を活かしつつ、これからの桃生での暮らしをみんなで考えていく予定です。

- 主なメンバー 14名
- 行政委員、民生委員児童委員、まちづくり協議会役員、身体障害者協会会員、子育てサークル会員、老人クラブ会員、農協女性部会員、ボランティア活動者、僧侶、福祉施設職員、教職員、市職員、元団体職員

担当
コーディネーター
中村有希



河南地区 第2層協議体 河南地域ささえあい会議



ある事例から「高齢者は夕食を作るのが大変」と気づき、福祉施設職員のメンバーが「地域の一員として、施設ができる支え合いを考えてみたい」と『夕食会』を企画。実施の際には、近隣の高齢者への声かけを民生委員児童委員に担ってもらいました。

担当
コーディネーター
山本将志

桃生地区 第2層協議体 桃生地区ささえあい会議



ある事例から「高齢者は夕食を作るのが大変」と気づき、福祉施設職員のメンバーが「地域の一員として、施設ができる支え合いを考えてみたい」と『夕食会』を企画。実施の際には、近隣の高齢者への声かけを民生委員児童委員に担ってもらいました。

担当
コーディネーター
中村有希

教えて！
コーディネーター

Q 生活支援体制整備事業とは？

A 高齢者の生活を支える体制づくりを進める事業です。「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の配置と「協議体（地域の支え合いを話し合う場）」の設置を通じて、地域主体の助け合い活動を推進します。



第1層生活支援
コーディネーター
小松沙織

Q 生活支援コーディネーターの役割とは？

- A**
- ① 地域資源・生活ニーズの把握
地域の集いの場などに足を運び、活動や、想い、困りごとなどを把握します。
 - ② 話し合いの場づくり
把握した声を共有し、これからの地域や暮らしを考えるきっかけをつくります。
 - ③ 支え合い活動の推進
安心して暮らしていくために地域で取り組めることを一緒に考えます。

Q 協議体の第1層と第2層の違いは？

A 第1層協議体…市全域……………
多様な主体の代表者を構成員として「石巻市生活支援・介護予防体制整備推進協議体」という名称で設置。市全域の課題を把握し、解決に向けた体制づくりを推進します。

● 構成員（14名）

- 石巻市民生委員児童委員協議会
- 石巻市老人クラブ連合会
- 地縁団体関係者
- 生活支援・介護予防サービスを提供する事業主体の関係者
- 福祉施設関係者
- NPO 関係者
- 地域包括支援センター関係者
- 石巻市社会福祉協議会



この事業がなぜ必要なのか、もっと広く知ってもらう必要がある。

関係機関同士の横の連携をもっと深めたい。

生活支援の担い手養成が重要になる。

それぞれの地区の困りごとを知り、必要な仕組みを形にしていこう。

第2層協議体…市内16地区……………
資格、条件を問わない多様なメンバーで「地区の特性に合わせた支え合いの地域づくり」について話し合い、地域主体の介護予防や助け合い活動を推進します。



石巻、住吉、山の手、湊、山下、蛇田、荻浜、渡波、稲井、釜・大街道

地域活動や暮らしに関する悩みごとなど、気軽に各地区担当のコーディネーターにご相談ください。

お問い合わせ

社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会

TEL 0225-24-8509

地域福祉課

〒986-0825 石巻市穀町15番2号
石巻市ささえあいセンター 3階

FAX 0225-96-5223

E-mail: csc@ishinomaki-shakyo.or.jp